

20年度まで年2回発行していた「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも・まなぶ」常陸大宮市生涯学習だより「DEMO (でも)」の編集委員が地域の「学びびと」を紹介します。

彩る花々で、心も和む里づくりを 小瀬 梅子さん (上小瀬在住)



生来、花好きであった小瀬さんは、結婚後もずっと、自宅周りに四季折々の草花を植え、楽しんでいました。近所や知人の方々からも、「きれいなね…。めずらしい花ね…。名前は何？」等と興味を示され、一緒に楽しむことが多くなりました。

～花に魅せられ、園芸への学びを～

多くの草花と関わりながら、名前や特性・栽培方法等を調べるうちに、草花に寄せる思いはますます強くなり、文献での学びも加わって、平成5年には、日本家庭園芸普及協会のグリーンアドバイザーの資格を取得しました。その後、県の海外女性派遣事業に参加して、ヨーロッパを視察したことで、園芸への興味をさらに深めていきました。

～多方面での活躍～

その後は、大好きいばらき県民会議が実施する「花と緑の環境美化コンクール」の中央審査委員として、県内各地の模範的な花壇づくりに触れ、花や樹木を生かした公園や環境の美化にも目を向けることが、一層強くなっていきました。十数年前には、「おがわ花の会」を結成し、市内外での「花による地域づくり」を実施するとともに、公民館講座や各種の園芸講師として活躍しています。そのようななかで、「『花づくりは人づくり』をモットーに、花を通じて出会った多くの仲間と共に、花による地域づくりを『生涯のライフワーク』としたい」と、目を輝やかせておられました。

県女性フォーラムや男女共同参画推進委員としても活躍し、「自然豊かなこの地で、美しい花と緑の潤いあるまちづくりのため役立っていただけたら」と、笑顔で話す姿に、女性リーダーとしてのお手本を見た思いがしました。



描くことを人生の糧に

関口 邦夫さん (高部在住)



ふすま2枚ほどもある大作「鷲子山上神社のまつり」を描いた作品の前で「何事も辛抱強く、長く続ける事が大事ですね」と語る関口さん。大正14年生まれという年齢を感じさせない力強い言葉でした。

～60歳の手習い～

関口さんは、子どもの頃から絵を描くのが好きだったそうです。本格的に油彩画を始めたのは60歳になってからで、当時、村の教育委員会におられた先生に教えていただき、絵画教室で腕を磨いてきました。村の文化祭には毎年出展してきました。また、いろいろな展覧会にも出展し、数々の賞を受賞されています。

薄塗りの写実的な画風は、写真と見間違え程緻密で繊細です。呉服店を営みながら、絵画クラブの会長として、月2回の勉強会を行うなど、常に絵に対する探求心に燃えています。一方、肖像画の依頼を受けたり、陶芸や切り絵も手掛けたりしています。「パワーの源は？」の質問に、「酒もたばこもやらない事かな」との答えでした。そして、頭の体操と称して、新聞のパズルなどにも毎号挑戦しているそうです。

～年を重ねてまだまだこれから～

2年前、白内障の手術をしたので色彩が鮮明になり、制作意欲も益々旺盛になりました。「絵を描いていると『無の気持ち』になり、煩わしさも忘れる。これからは、アトリエにある数々の作品をお店の中に展示して、多くの方に観ていただきたい」と言うておられました。

